



会期 10月29-30日

会場 千葉ポートアリーナ

田村OB3名出場!

「講道館杯とは」 体重別で行われる全日本選抜柔道体重別選手権大会や体重無差別のみで行われる全日本柔道選手権大会と共に日本国内におけるビッグタイトルの1つであり、2023世界柔道選手権大会（カタール/ドーハ）の第一次選考、2022年東京グランドスラムの選考大会である。オリンピックや世界選手権代表選手なども出場する。



佐井川陽舜（20）法政大学2年

初戦は福井選手（兵庫県警）との対戦。佐井川は左組み、ケンカ四つとなり積極的に引手を取ろうとするのに対し相手は消極的のため指導が2つ入る。釣り手は前襟、奥襟、背中どこでも大丈夫な佐井川は内股、払腰、隅返で果敢に攻めていく。勝負はGS延長戦となりGS52秒に放った内股で相手を一回転させ一本勝ち。初出場を白星で飾った。続く相手は優勝した植岡選手（天理大学）。先に内股を仕掛け得意の背負い投げを封じさせる展開。2分過ぎには消極的指導が2つも植岡選手に対して与えられ試合をリードした。しかし残り1分30秒あたりからだんだんと植岡選手の背負い投げに懐を許す展開になってきた。誰しもGS延長戦に入ると思われた瞬間、終了のブザーと同時に放たれた植岡選手の背負い投げに乗ってしまい技ありを許し無念の敗退となった。試合後「前半の攻撃でスタミナを消耗してしまった」と語った。来年またこの会場で活躍してくれることを期待する。



鈴木直登（21）東海大学3年

初戦から今月初めの全日本学生柔道体重別選手権大会決勝の相手、熊坂選手（国士舘大学）。鈴木は前回の雪辱を晴らすべく畳へと上がった。引手を制した組手で前進、下がったとの判断で場外指導が熊坂選手に与えられ鈴木がリード。熊坂選手は片襟からの払い巻き込みで技を出す但鈴木に返されぬように無理せず前に倒れる戦法。消極的指導が鈴木へ与えられポイントが並ぶが、直後に手を放した技を仕掛け、かけ逃げ指導が熊坂選手へ。再びポイントリード。しかし引手を押さえつけている間はいいのだが外されるとすぐに巻き込みを仕掛けられてしまう。不十分な姿勢から放った巴投げをかけ逃げと判断され鈴木にも指導が加算。GS延長戦へ突入後の1分12秒、相手の巻き込みに乗ってしまい技ありを取られ敗退。リベンジは持ち越しとなった。試合後「今の柔道スタイルにプラスしなければ」と語っていた。



杉山海（23）センコー株式会社

実業団大会での入賞、国体での活躍と社会人1年目ながら着々と実力をつけてきた杉山。初戦は19歳と若い岩下選手（国学院大学）と対戦。杉山は81キロ級では身長、手足の長さもトップクラスだが相手も同等の選手。奥襟を取ろうとするが相手に突っ張られいいところが取れずに組手で苦戦。相手が片襟で技に入り杉山が潰して得意の三角で攻める展開が続く。お互いに消極的指導2つでGS延長戦へ。両者、自身の組み手になる瞬間はほとんどなかったが相手がやや技出しで先行していた。GS4分54秒で杉山に3つ目の消極的指導が加算され敗戦。試合後「手足の長いやりづらい選手だった」と語り今後対策を練り苦手を克服していくだろう。